

# 焼却炉の海外展開支援

## トマス技研に公庫と沖銀



官民連携で海外事業を展開するトマス技術研究所の福富健仁社長（左から2人目）と沖縄公庫の平良貴洋氏（左端）、沖銀法人部の又吉司氏（右端）、JICA沖縄の河崎充良所長。30日、浦添市のJICA沖縄

沖縄振興開発金融公庫（川上好久理事長）と沖縄銀行（玉城義昭頭取）は30日、小型焼却炉「チリメーサー」を開発したトマス技術研究所（うるま市、福富健仁社長）に対して海外展開の運転資金を融資したと発表した。国際協力機構（JICA）の事業に採択されたインドネシア・バリ島内の病院に小型焼却炉を導入するトマス技研の海外事業をサポートするため、官民連携で支援を強化する。

沖繩公庫と沖銀、JICAの関係者は30日、浦添市のJICA沖繩で会見を開いた。融資額は沖繩公庫が資本性ローン5千万円、沖銀は非公表とした。

トマス技研は資金を活用して、バリ島の医療廃棄物問題を解決するため、島内10カ所の病院にチリメーサーを導入する実証実験を皮切りに本格的な海外展開を図る。福富社長は「海外・県外の廃棄物問題を解決できる製品だ。市場を開拓して県経済に貢献したい」と意気込みを語った。

沖繩公庫の平良貴洋中部支店業務第一課長は「トマス技研の技術力と事業可能性を評価して、海外展開を

支援したい」と話した。

沖銀は融資に加え、海外との資金決済サービスや国際税務に関するコンサルティングも行う。沖銀法人部の又吉司部長代理は「特許技術を生かして大手企業に対抗するトマス技研の戦略

を支援したい」と話した。

トマス技研にはベトナムやフィリピン、ハワイ、ブラジル、台湾など各国・地域から製品の問い合わせがあるという。同社の年間売上高は現在1億円弱だが、海外展開を見据えて5年後

に3億円、10年後に5億円以上を目指す。

チリメーサーは畳1枚ほどの小型焼却炉だが、廃棄物を完全燃焼させて黒煙を出さず、ダイオキシン類を高温で分解する高い性能を有する。

# トマス技研を支援

## 小型焼却炉の製造・販売

### 公庫と沖銀 海外展開で



沖縄振興開発金融公庫と沖縄銀行は、小型焼却炉の製造販売を手掛けるトマス技術研

究所（うるま市、福富健仁代表）の海外展開を資金面やコンサルティングなどで支援す

トマス技術研究所の海外展開に向けて協力を誓う福富健仁代表（左から2人目）ら関係者。30日、浦添市・沖縄国際センター

る。公庫は無担保無保証で自己資本とみなせる資本性ローンを適用し、同社に5千万円を融資したと30日発表した。沖銀も運転資金貸し付けや海外との資金決済サービス、国際税務対策に関わるコンサルティングを実施している。

公庫と沖銀は国際協力機構（JICA）の「中小企業海外展開支援事業」を通じ、トマス社の将来性を評価。トマス社は同事業でインドネシアの医療廃棄物問題を解決するため、昨年末からバリ島内10カ所の病院で、小型焼却炉「チリメーサー」導入のための実証実験を続けている。

独自の燃焼技術で黒煙が出ないチリメーサーは現地で評判が高く、「ものすごい引き合いを感じる」（福富代表）という。県内外での導入実績は72台。インドネシアのほか、鹿児島県や熊本県など九州の離島のマーケティングにも着手する。小型焼却炉は現在月産1台だが、財務基盤の充実による3年後には月産5台、10年後には月産10〜20台の生産態勢を整える方針。メイン以外の部品をインドネシアで生産（howell）も検討している。

30日、浦添市の沖縄国際センターで関係者が協力を確認した。福富代表は「『島国』沖縄の技術者の発想が県外、海外の離島で役に立っている。廃棄物、エネルギー問題を解決できる製品として売り込みたい」と意欲を示した。

独自の燃焼技術で黒煙が出ないチリメーサーは現地で評判が高く、「ものすごい引き合いを感じる」（福富代表）という。県内外での導入実績は72台。インドネシアのほか、鹿児島県や熊本県など九州の離島のマーケティングにも着手する。小型焼却炉は現在月産1台だが、財務基盤の充実による3年後には月産5台、10年後には月産10〜20台の生産態勢を整える方針。メイン以外の部品をインドネシアで生産（howell）も検討している。